

エステ1: エステル記 第1章

エステ1:1 アハシュエロスすなわちインドからエチオピヤまで127州を治めたアハシュエロスの世、

エステ1:2 アハシュエロス王が首都スサで、その国の位に座していたころ、

エステ1:3 その治世の第3年に、彼はその大臣および侍臣たちのために酒宴を設けた。ペルシャとメデアの將軍および帰属ならびに諸州の大臣たちがその前にいた。

エステ1:4 その時、王はその盛んな国の富と、その王威の輝きと、はなやかさを示して多くの日を重ね、180日に及んだ。

エステ1:5 これらの彼が終った時、王は王の宮殿の園の庭で、首都スサにいる大小のすべての民のために7日の間、酒宴を設けた。

エステ1:6 そこには白綿布の垂幕と青色のとばりとがあつて、紫色の細布のひもで銀の輪および大理石の柱につながれていた。また長いすは金銀で作られ、石膏と大理石と真珠貝および寶石の切りはめ細工の床の上に置かれていた。

エステ1:7 酒は金の杯で賜わり、その杯はそれぞれ違つたもので、王の大きな度量にふさわしく、王の用いる酒を惜しみなく賜わつた。

エステ1:8 その飲むことは法にかない、だれもしいられることはなかつた。これは王が人々におのおの自分の好むようにさせよと宮廷のすべての役人に命じておいたからである。

エステ1:9 王妃ワシテもまたアハシュエロス王に属する王宮の打ちで女たちのために酒宴を設けた。

エステ1:10 7日目にアハシュエロス王は酒のために心が楽しくなり、王の前に仕える7人の侍従メホマン、ビズタ、ハルボナ、ビグタ、アバグタ、ゼタルおよびカルカスに命じて、

エステ1:11 王妃ワシテに王妃の冠をかぶらせて王の前にこさせよと言つた。これは彼女が美しかったので、その美しさを民らと大臣たちに見せるためであつた。

エステ1:12 ところが、王妃ワシテは侍従が伝えた王の命令に従つて来ることを拒んだので、王は大いに憤り、その怒りが彼の内に燃えた。

エステ1:13 そこで王は時を知っている知者に言つた、――王はすべて法律と審判に通じている者に相談するのを常とした。

エステ1:14 時に王の次にいた人々はペルシャおよびメデアの7人の大臣カルシナ、セタル、アダマタ、タルシシ、メレス、マルセナ、ムカンであつた。彼らは皆王の顔を見る者で、国の首位に座する人々であつた――

エステ1:15 “王妃ワシテは、アハシュエロス王が侍従をもって伝えた命令を行わないゆえ、法律に従つて彼女にどうしたらよからうか”。

エステ1:16 ムカンは王と大臣たちの前で言つた、“王妃ワシテはただ王にむかつて悪い事をしたばかりでなく、すべての大臣およびアハシュエロス王の各州のすべての民にむかつてもしたのです”。

エステ1:17 王妃のこの行いはあまねくすべての女たちに聞えて、彼らはついにその目に夫を卑しめ、‘アハシュエロス王は王妃ワシテに、彼の前に来るように命じたがこなかつた’と言うでしょう。

エステ1:18 王妃のこの行いを聞いたペルシャとメデアの大臣の婦人たちもまた、今日、王のすべての大臣たちにこのように言うでしょう。そうすれば必ず卑しめと怒りが多く起ります。

エステ1:19 もし王がよしとされるならば、ワシテはこの後、再びアハシュエロス王の前にきてはならないという王の命令を下し、これをペルシャとメデアの律法の中に書き入れて変えることのないようにし、そして王妃の位を彼女にまさる他の者に与えなさい。

エステ1:20 王の下される詔がこの大きな国にあまねく告げ示されるとき、妻たる前はことごとく、その夫を高下の別なく共に敬うようになるでしょう”。

エステ1:21 王と大臣たちはこの言葉をよしとしたので、王はムカンの言葉のとおりに行つた。

エステ1:22 王は王の諸州にあまねく書を贈り、各州にはその文字にしたがい、各民族にはその言語にしたがつて書き送りすべて男子たる者はその家の主となるべきこと、また自分の民の言語を用いて語るべきことをさとした。

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ2: エステル記 第2章

エステ2:1 これらんことの後、アハシュエロス王の怒りがとけ、王はワシテおよび彼女のしたこと、また彼女に対して定めたことを思い起した。

エステ2:2 時に王に仕える侍臣たちは言つた、“美しい若い処女たちを王のために尋ね求めましょう”。

エステ2:3 どうぞ王はこの国の各州において役人を選び、美しい若い処女をことごとく首都スサにある婦人の居室に集めさせ、婦人をつかさどる王の侍従ヘガイの管理のもとにおいて、化粧のための品々を彼らに与えてください。

エステ2:4 こうして御意にかなうおとめをとって、ワシテの代りに王妃としてください”。王はこの事をよしとし、そのように行った。

エステ2:5 さて首都スサにひとりのユダヤ人がいた。名をモルデカイといい、キシのひこ、シメイの孫、ヤイルの子で、ベニヤミンびとであった。

エステ2:6 彼はバビロンの王ネブカデネザルが捕えていったユダの王エコニヤと共に捕えられていた捕虜のひとりで、エルサレムから捕え移された者である。

エステ2:7 彼はそのおじの娘ハダッサすなわちエステルを養い育てた。彼女には父も母もなかったからである。このおとめは美しく、かわいらしかったが、その父母の死後、モルデカイは彼女を引きとって自分の娘としたのである。

エステ2:8 王は命令と詔が伝えられ、多くのおとめが首都スサに集められて、ヘガイの管理のもとにおかれたとき、エステルもまた王宮に携え行かれ、婦人をつかさどるヘガイの管理のもとにおかれた。

エステ2:9 このおとめはヘガイの心になんか、そのいつくしみを得た。すなわちヘガイはすみやかに彼女に化粧の品々および食物の分け前を与え、また宮中から7人のすぐれた侍女を選んで彼女に付き添わせ、彼女とその侍女たちを婦人の居室のうちの最も良い所に移した。

エステ2:10 エステルは自分の民のことも、自分の同族のことも人に知らせなかった。モルデカイがこれを知らずなど彼女に命じたからである。

エステ2:11 モルデカイはエステルの様子および彼女がどうしているかを素人、毎日婦人の居室の庭の前を歩いた。

エステ2:12 おとめたちはおのおの婦人のための規定にしたがって12か月を経て後、順番にアハシュエロス王の所へ行くのであった。これは彼らの化粧の期間として、没薬の油を用いること6か月、香料および婦人の化粧に使う品々を用いること6割記が定められていたからである。

エステ2:13 こうしておとめは王の所へ行くのであった。そしておとめが婦人の居室を出て王宮へ行く時には、すべてその望む物が与えられた。

エステ2:14 そして夕方行って、あくる朝第2の婦人の居室に帰り、そばめたちをつかさどる王の侍従シャシガズの管理に移された。王がその女を喜び、名ざして召すのでなければ、再び王の所へ行くことはなかった。

エステ2:15 さてモルデカイのおじアビハイルの娘、すなわちモルデカイが引きとって自分の娘としたエステルが王の所へ行く順番となったが、彼女は婦人をつかさどる王の侍従ヘガイが勧めた物のほか何をも求めなかった。エステルはすべて彼女を見る物に喜ばれた。

エステ2:16 エステルがアハシュエロス王に召されて王宮へ言ったのは、その治世の第7年の10月、すなわちテベテの月であった。

エステ2:17 王はすべての婦人にまさってエステルを愛下野で、彼女はすべての処女にまさって王の前に恵みといつくしみを得た。王はついに王妃の冠を彼女の頭にいただきせ、ワシテに代って王妃とした。

エステ2:18 そして王は大いなる酒宴を催して、すべての大臣と侍臣をもてなした。エステルの酒宴がこれである。また諸州に免税を行い、王の大きな度量にしたがって贈り物を与えた。

エステ2:19 2度目に処女たちが集められたとき、モルデカイは王の門にすわっていた。

エステ2:20 エステルはモルデカイが命じたように、まだ自分の同族のことも自分の民のことも人に知らせなかった。エステルはモルデカイの言葉に従うこと、彼に養い育てられた時と少しも変らなかった。

エステ2:21 そのころ、モルデカイが王の門にすわっていた時、王の侍従で、王のへやの戸を守る者のうちのビグタンとテレシのふたりが怒りのあまりアハシュエロス王を殺そうとねらっていたが、

エステ2:22 その事がモルデカイに知れたので、彼はこれを王妃エステルに告げ、エステルはこれをモルデカイの名をもって王に告げた。

エステ2:23 その事が調べられて、それに相違ないことがあらわれたので、彼らふたりは木にかけられた。この事は王の前で日誌の書にかきしるされた。

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ3: エステル記 第3章

エステ3:1 これらの事の後、アハシュエロス王はアガグびとハンメダテの子ハマンを重んじ、これを昇進させて、自分

と共にいるすべての大臣たちの上にその席を定めさせた。

エステル3:2 王の門の内にいる王の侍臣たちは皆ひざまじいてハマンに敬礼した。これは王が彼についてこうすることを命じたからである。しかしモルデカイはひざまずかず、また敬礼しなかった。

エステル3:3 そこで王の門にいる王の侍臣たちはモルデカイにむかって、“あなたはどのようにして王の命令にそむくか”と言った。

エステル3:4 彼らは毎日モルデカイにこう言うけれども聞きいれなかったので、その事がゆるされるかどうかを見ようと、これをハマンに告げた。なぜならモルデカイはすでに自分のユダヤ人であることを彼らに語ったからである。

エステル3:5 ハマンはモルデカイのひざまずかず、また自分に敬礼しないのを見て怒りに満たされたが、

エステル3:6 ただモルデカイだけを殺すことを潔しとしなかった。彼らがモルデカイの属する民をハマンに知らせたので、ハマンはアハシュエロスの国のうちにいるすべてのユダヤ人、すなわちモルデカイの属する民を悉く滅ぼそうと図った。

エステル3:7 アハシュエロス王の第12年の正月すなわちにニサンの月に、ハマンの前で、12月すなわちアダルの月まで、1日1日のため、1月1日のために、ブルすなわちくじを投げさせた。

エステル3:8 そしてハマンはアハシュエロス王に言った、“お国の各州にいる諸民のうちに、散らされて、別れ別れになっている1つの民がいます。その律法は他のすべての民のものと異なり、また彼らは王の律法を守りません。それゆえ彼らを許しておくことは王のためになりません。

エステル3:9 もし王がよしとされるならば、彼らを滅ぼせと詔をお書きください。そうすればわたしは王の事をつかさどる者たちの手に銀1万タラントを量りわたして、王の金庫に入れさせましょう”。

エステル3:10 そこで王は手から指輪をはずし、アガグびとハンメダタの子で、ユダヤ人の敵であるハマンにわたした。

エステル3:11 そして王はハマンに言った、“その銀はあなたに与える。その民もまたあなたに与えるから、よいと思うようにしなさい”。

エステル3:12 そこで正月の13日に王の書記官が召し集められ、王の総督、各州の知恵および諸民のつかさたちにハマンが命じたことをことごとく書きしるした。すなわち各州に送るものにはその文字を用い、諸民を送るものにはその言語を用い、おのおののアハシュエロス王の名をもってそれを書

3,12-1, それを書き、王の指輪をもってそれに印を押した。

エステル3:13 そして急使をもってその書を王の諸州に送り、12月すなわちアダルの月の13日に、1日のうちにすべてのユダヤ人を、若い者、老いた者、子供、女の別なく、ことごとく滅ぼし、殺し、絶やし、かつその貨財を奪い取れと命じた。

エステル3:14 この文書の写しを詔として各州に伝え、すべての民に公示して、その日のために供えさせようとした。

エステル3:15 急使は王の命令により急いで出ていった。この詔は首都スサで発布された。時に王とハマンは座して酒を飲んでしたが、スサの都はあわて惑った。

エステル\*\*\*:

エステル\*\*\*:

エステル\*\*\*:

エステル\*\*\*:

エステル\*\*\*:

エステル4: エステル記 第4章

エステル4:1 モルデカイはすべてこのなされたことを知ったとき、その衣を裂き、荒布をまとい、灰をかぶり、町の中へ行って大声をあげ、激しく叫んで、

エステル4:2 王の門の入口まで行った。荒布をまもっては王の門の内にはいることができないからである。

エステル4:3 すべて王の命令と詔をうけ取った各州ではユダヤ人のうちに大いなる悲しみがあり、断食、嘆き、叫びが起り、また荒布をまとい、灰の上に座する者が多かった。

エステル4:4 エステルの侍女たちおよび侍従たちがきて、この事を告げたので、王妃は非常に悲しみ、モルデカイに着物を贈り、それを着せて、荒布を脱がせようとしたが受けなかった。

エステル4:5 そこでエステルは王の侍従のひとりで、王が自分にはべらせたハタクを召し、モルデカイのもとへ行って、それは何事であるか、何ゆえであるかを尋ねて来るようにと命じた。

エステル4:6 ハタクは出て、王の門の前にある町の広場にいるモルデカイのもとへ行くと、

エステル4:7 モルデカイは自分の身に起ったすべての事を彼に告げ、かつハマンがユダヤ人を滅ぼすことのために王の金庫に量り入ると約束した銀の正確な額を告げた。

エステル4:8 また彼らを滅ぼさせるために、スサで発布された詔書の移しを彼にわたし、それをエステルに見せ、かつ説きあかし、彼女が王のもとへ行ってその民のために王のあわれみを請い、王の前に願い求めように彼女に言い伝えよと言った。

エステ4:9 ハタクが帰ってきてモルデカイの言葉をエステルに告げたので、  
エステ4:10 エステルはハタクに命じ、モルデカイに言葉を伝えさせて言った、  
エステ4:11 王の侍臣および王の諸州の民は皆、男でも女でも、すべて召されないのに、内庭には行って王のもとへ行く者は、必ず殺されなければならないという1つの法律のあることを知っています。ただし王がその者に金の笏を伸べれば生きることができるのです。しかしわたしはこの30日◆

4,11-1,この30日の間、王のもとへ行くべき召をこうむらないのです”。

エステ4:12 エステルの言葉をモルデカイに告げたので、

エステ4:13 モルデカイは命じてエステルに答えさせて言った、“あなたは王宮にいるゆえ、すべてのユダヤ人と異なり、難を免れるだろうと思ってはならない。

エステ4:14 あなたがもし、このような時に黙っているならば、ほかの所から、助けと救がユダヤ人のために起るでしょう。しかし、あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう。あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためではなかったとだれが知りましょう”。

エステ4:15 そこでエステルは命じてモルデカイに答えさせた、

エステ4:16 “あなたは行ってスサにいるすべてのユダヤ人を集め、わたしのために断食してください。3日のあいだ夜も昼も食ひ飲みしてはなりません。わたしとわたしの侍女たちも同様に断食しましょう。そしてわたしは律法にそむくことですが王のもとへ行きます。わたしがもし死なねばな◆

4,16-1,死なねばならないのなら、死にます”。

エステ4:17 モルデカイは行って、エステルがすべて自分に命じたとおりに行った。

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ5: エステル記 第5章

エステ5:1 3日目にエステルは王妃の服を着、王宮の内庭に入り、王の広間にむかって立った。王は王宮の玉座に座して王宮の入口にむかっていたが、

エステ5:2 王妃エステルが庭に立っているのを見て彼女に恵みを示し、その手にある金の笏をエステルの方に伸ばしたので、エステルは進みよってその笏の頭にさわった。

エステ5:3 王は彼女に言った、“王妃エステルよ、何を求めるのか。あなたの願いは何か。国の半ばでもあなたに与えよう”。

エステ5:4 エステルは言った、“もし王がよしとされるならば、きょうわたしが王のために設けた酒宴に、ハマンとご一緒にお臨みください”。

エステ5:5 そこで王は“ハマンを速く連れてきて、エステル言うようにせよ”と言い、やがて王とハマンはエステルの設けた酒宴に臨んだ。

エステ5:6 酒宴の時、王はエステルに言った、“あなたの求めることは何か。必ず聞かれる。あなたの願いは何か。国の半ばでも聞きとどめられる”。

エステ5:7 エステルは答えて言った、“わたしの求め、わたしの願いはこれです。

エステ5:8 もしわたしが王の目の前に恵みを得、また王がもしわたしの求めを許し、わたしの願いを聞きとどけるのをよしとされるならば、ハマンとご一緒に、あすまた、わたしが設けようとする酒宴に、お臨みください。わたしはあす王のお言葉どおりにいたしましょう”。

エステ5:9 こうしてハマンはその日、心に喜び楽しんで出てきたが、ハマンはモルデカイが王の門にいて、自分にむかって立ちあがりもせず、また身動きもしないのを見たので、モルデカイに対し怒りに満たされた。

エステ5:10 しかしハマンは耐え忍んで家に帰り、人をやってその友だちおよび妻ゼレシを呼んでこさせ、

エステ5:11 そしてハマンはその富の榮華と、そのむすこたちの多いことと、すべて王が自分を重んじられたこと、また王の大臣および侍臣たちにまさって自分を昇進させられたことを彼らに語った。

エステ5:12 ハマンはまた言った、“王妃エステルは酒宴を設けたが、わたしのほかはだれも王と共にこれに臨まなかった。あすもまたわたしは王と共に王妃に招かれている。

エステ5:13 しかしユダヤ人モルデカイが王の門に達しているの間は、これらの事もわたしには楽しくない”。

エステ5:14 その時、妻ゼレシとすべての友は彼に言った、“高さ50キュビトの木を立てさせ、あすの朝、モルデカイをその上に掛けるように王に申し上げなさい。そして王と一緒に楽しんでその酒宴においでなさい”。ハマンはこの事をよしとして、その木を立てさせた。

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ6: エステル記 第6章

エステ6:1 その夜、王は眠ることができなかったので、命じて日々の事をしした記録の書を持ってこさせ、王の前で読ませたが、

エステ6:2 そのなかに、モルデカイがかつて王の侍従で、王のへやの戸を守る者のうちのビグタナとテレシのふたりが、アハシュエロス王を殺そうとねらっていることを告げた、と知るされているのを見いだした。

エステ6:3 そこで王は言った、“この事のために、どんな荣誉と爵位をモルデカイに与えたか”。王に仕える侍臣たちは言った、“何も彼に与えていません”。

エステ6:4 王は言った、“庭にいるのはだれか”。この時ハマンはモルデカイのために設けた木にモルデカイを掛けることを王に申し上げようと王宮の外庭にはいつてきていた。

エステ6:5 王の侍臣たちが“ハマンが庭に立っています”と王に言ったので、王は“ここへ、はいらせよ”と言った。

エステ6:6 やがてハマンがはいって来ると王は言った、“王が荣誉を与えようと思う人にはどうしたらよからうか”。ハマンは心のうちに言った、“王はわたし以外にだれに荣誉を与えようと思われるだろうか”。

エステ6:7 ハマンは王に言った、“王が荣誉を与えようと思われる人のためには、

エステ6:8 王の着られた衣服を持ってこさせ、また王の乗られた馬、すなわちその頭に王冠をいただいた馬をひいてこさせ、

エステ6:9 その衣服と馬とを王の最も尊い大臣のひとりの手にわたして、王が荣誉を与えようと思われる人にその衣服を着させ、またその人を馬に乗せ、町の広場を導いて通らせ、‘王が荣誉を与えようと思う人にはこうするのだ’とその前に呼ばわせなさい”。

エステ6:10 それで王はハマンに言った、“急いであなたが言ったように、その衣服と馬とを取り寄せ、王の門に座しているユダヤ人モルデカイにそうしなさい。あなたが言ったことを1つも欠いてはならない”。

エステ6:11 そこでハマンは衣服と馬とも取り寄せ、モルデカイにその衣服を着せ、彼を馬に乗せて町の広場を通らせ、その前に呼ばわって、“王が荣誉を与えようと思う人にはこうするのだ”と言った。

エステ6:12 こうしてモルデカイは王の門に帰ってきたが、ハマンは憂え悩み、頭をおおって急いで家に帰った。

エステ6:13 そしてハマンは自分の身に起った事をことごとくその妻ゼレシと友だちに告げた。するとその知者たちおよび妻ゼレシは彼に言った、“あのモルデカイ、すなわちあなたがその人の前に敗れ始めた者が、もしユダヤ人の子孫であるならば、あなたは彼に勝つことはできない。必ず彼の◆

6,13-1,必ず彼の前に敗れるでしょう”。

エステ6:14 彼らがなおハマンと話している時、王の侍従たちがきてハマンを促し、エステルが設けた酒宴に臨ませた。

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ7: エステル記 第7章

エステ7:1 王とハマンは王妃エステルの酒宴に臨んだ。

エステ7:2 このふつか目の酒宴に王はまたエステルに言った、“王妃エステルよ、あなたの求めることは何か。必ず聞かれる。あなたの願いは何か。国の半ばでも聞きとどめられる”。

エステ7:3 王妃エステルは答えて言った、“王よ、もしわたしが王の目の前に恵みを得、また王がもしよしとされるならば、わたしの求めにしたがってわたしの命をわたしに与え、またわたしの願いにしたがってわたしの民をわたしに与えてください”。

エステ7:4 わたしとわたしの民は売られて滅ぼされ、殺され、絶やされようとしています。もしわたしたちが男女の奴隷として売られただけなら、わたしは黙っていたでしょう。わたしたちの難儀は王の損失とは比較にならないからです”。

エステ7:5 アハシュエロス王は王妃エステルに言った、“そんな事をしようと心にたくらんでいる者はだれか。またどこにいるのか”。

エステ7:6 エステルは言った、“そのあだ、その敵はこの悪いハマんです”。そこでハマンは王と王妃の前に恐れおののいた。

エステ7:7 王は怒って酒宴の席を立ち、宮殿の園へ言ったが、ハマンは残って王妃エステルに命ごいをした。彼は王が自分に害を加えようと定めたのを見たからである。

エステ7:8 王が宮殿の園から酒宴の場所に帰ってみると、エステルのいた長いすの上にハマが伏していたので、王は言った、“彼はまたわたしの家で、しかもわたしの前で王妃をはずかしめようとするのか”。この言葉が王の口から出たとき、人々は、ハマの顔をおおった。

エステ7:9 その時、王に付き添っていたひとりの侍従ハルボナが“王のためにより事を告げたあのモルデカイのためにハマが用意した高さ50キュビトの木がハマの家に立っています”と言ったので、王は“彼をそれに掛けよ”と言った。

エステ7:10 そこで人々はハマをモルデカイのために備えてあったその木に掛けた。こうして王の怒りは和らいだ。

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ8: エステル記 第8章

エステ8:1 その日アハシュエロス王は、ユダヤ人の敵ハマの家を王妃エステルに与えた。モルデカイは王の前きた。これはエステルが自分とモルデカイがどんな関係の者であるかを告げたからである。

エステ8:2 王はハマから取り返した自分の指輪をはずして、モルデカイに与えた。エステルはモルデカイにハマの家を管理させた。

エステ8:3 エステルは再び王の前に奏し、その足もとにひれ伏して、アガグびとハマの陰謀すなわち彼がユダヤ人に対して企てたその計画を除くことを涙ながらに請い求めた。

エステ8:4 王はエステルにむかって金の笏を伸べたので、エステルは身を起して王の前に立ち、

エステ8:5 そして言った、“もし王がよしとされ、わたしが王の前に恵みを得、またこの事が王の前に正しいと見え、かつわたしが王の目にならうならば、アガグびとハンメダタの子ハマが王の諸州にいるユダヤ人を滅ぼそうとはかって書き送った書を取り消す旨を書かせてください。

エステ8:6 どうしてわたしは、わたしの民に臨もうとする災を、だまって見ていることができますか。どうしてわたしの同族の滅びるのを、だまって見ていることができますか”。

エステ8:7 アハシュエロス王は王妃エステルとユダヤ人モルデカイに言った、“ハマがユダヤ人を殺そうとしたので、わたしはハマの家をエステルに与え、またハマを木に掛けさせた。

エステ8:8 あなたがたは自分たちの思うままに王の名をもってユダヤ人についての書をつくり、王の指輪をもってそれに印を押すがよい。王の名をもって書き、王の指輪をもって印を押した書はだれも取り消すことができない”。

エステ8:9 その時王の書記官が召し集められた。それは3月すなわちシワンの月の23日であった。そしてインドからエチオピアまでの127州にいる総督、諸州の知事および大臣たちに、モルデカイがユダヤ人について命じたとおりに書き送った。すなわち各州にはその文字を用い、各民族に◆

8,9-1,各民族にはその言語を用いて書き送り、ユダヤ人に送るものにはその文字と言語とを用いた。

エステ8:10 その書はアハシュエロス王の名をもって書かれ、王の指輪をもって印を押し、王の御用馬としてそのうまやに育った早馬に乗る急使によって送られた。

エステ8:11 その中で、王はすべての町にいるユダヤ人に、彼らが相集まって自分たちの生命を保護し、自分たちを襲おうとする諸国、諸州のすべての武装した民を、その妻子もろともに滅ぼし、殺し、絶やし、かつその貨財を奪い取ることを許した。

エステ8:12 ただしこの事をアハシュエロス王の諸州において、12月すなわちアダルの月の13日に、1日のうちに行うことを命じた。

エステ8:13 この書いた物の写しを詔として各州に伝え、すべての民に公示して、ユダヤ人に、その日のために備えて、その敵にあだをかえさせようとした。

エステ8:14 王の御用馬である早馬に乗った急使は、王の命によって急がされ、せきたてられて出て行った。この詔は首都スサで出された。

エステ8:15 モルデカイは青と城の朝服を着、大きな金の冠をいただき、紫色の細布の上着をまとして王の前から出て行った。スサの町中、声をあげて喜んだ。

エステ8:16 ユダヤ人には光と喜びと楽しみと誉があった。

エステル8:17 いずれの州でも、いずれの町でも、すべて王の命令と詔の伝達された所では、ユダヤ人は喜び楽しみ、酒宴を開いてこの日を祝日とした。そしてこの国の民のうち多くの者がユダヤ人となった。これはユダヤ人を恐れる心が彼らのうちに起ったからである。

エステル\*\*\*:

エステル\*\*\*:

エステル\*\*\*:

エステル\*\*\*:

エステル\*\*\*:

エステル9: エステル記 第9章

エステル9:1 12月すなわちアダル月の13日、王の命令と詔の行われる時が近づいたとき、すなわちユダヤ人の敵がユダヤ人を打ち伏せようと望んでいたのに、かえってユダヤ人が自分たちを憎む者を打ち伏せることとなったその日に、

エステル9:2 ユダヤ人はアハシュエロス王の各州にある自分たちの町々に集まり、自分たちに害を加えようとする者を殺そうとしたが、だれもユダヤ人に逆らうことのできるものはなかった。すべての民がユダヤ人を恐れたからである。

エステル9:3 諸州の大臣、総督、知事および王の事をつかさどる者は皆ユダヤ人を助けた。彼らはモルデカイを恐れたからである。

エステル9:4 モルデカイは王の家で大いなる者となり、その名声は各州に聞えわたった。この人モルデカイがますます勢力ある者となったからである。

エステル9:5 そこでユダヤ人はつらぎをもってすべての敵を撃って殺し、滅ぼし、自分たちを憎む者に対し心のままに行った。

エステル9:6 ユダヤ人はまた首都スサにおいても500人を殺し、滅ぼした。

エステル9:7 またパルシャンダタ、ダルボシ、アスパタ、

エステル9:8 ボラタ、アダリヤ、アリダタ、

エステル9:9 パルマシタ、アリサイ、アリダイ、フェザタ、

エステル9:10 すなわちハンメダタの子で、ユダヤ人の敵であるハマンの10人の子をも殺した。しかし、そのぶんどり物には手をかけなかった。

エステル9:11 その日、首都スサで殺された者が数が王に報告されると、

エステル9:12 王は王妃エステルに行った、“ユダヤ人は首都スサで500人を殺し、またハマンの10人の子を殺した。王のその他の諸国ではどんなに彼らは殺したことであろう。さてあなたの求めることは何か。必ず聞かれる。更にあなたの願いは何か。必ず聞きとどけられる”。

エステル9:13 エステルは言った、“もし王がよしとされるならば、どうぞスサにいるユダヤ人にあすも、きょうの詔のように行くことをゆるしてください。かつハマンの10人の子を木に掛けさせてください”。

エステル9:14 王はそうせよと命じたので、スサにおいて詔が出て、ハマンの10人の子は木に掛けられた。

エステル9:15 アダル月の14日にまたスサにいるユダヤ人が集まり、スサで300人を殺した。しかし、そのぶんどり物には手をかけなかった。

エステル9:16 王の諸州にいる他のユダヤ人もまた集まって、自分たちの生命を保護し、その敵に勝って平安を得、自分たちを憎む者75000人を殺した。しかし、そのぶんどり物には手をかけなかった。

エステル9:17 これはアダル月の13日であって、その14日に休んで、その日を酒宴と喜びの日とした。

エステル9:18 しかしスサにいるユダヤ人は13日と14日に集まり、15日に休んで、その日を酒宴と喜びの日とした。

エステル9:19 それゆえ村々のユダヤ人すなわち城壁のない町々に住む物はアダル月の14日を喜びの日、酒宴の日、祝日とし、互に食べ物を贈る日とした。

エステル9:20 モルデカイはこれらのことを書きしるしてアハシュエロス王の諸州にいるすべておユダヤ人に、近い者にも遠い者にも書を送り、

エステル9:21 アダル月の14日と15日とを年々祝うことを命じた。

エステル9:22 すなわちこの両日にユダヤ人がその敵に勝って平安を得、またこの月は彼らのために憂いから喜びに変り、悲しみから祝日になったので、これらを酒宴と喜びの日として、互いに食べ物を贈り、貧しい者に施しをする日とせよとさした。

エステル9:23 そこでユダヤ人は彼らがすでに始めたように、またモルデカイが彼らに書き送ったように、行くことを約束した。

エステル9:24 これはアガグびとハンメダタの子ハマン、すなわちすべてのユダヤ人の敵がユダヤ人を滅ぼそうとはかり、ブルすなわちくじを投げて彼らを絶やし、滅ぼそうとしたが、

エステル9:25 エステルが王の前にきたとき、王は書を送って命じ、ハマンがユダヤ人に対して企てたその悪い計画を

ハマンの頭上に臨ませ、彼とその子らを木に掛けさせたからである。

エステ9:26 このゆえに、この両日をブルの名にしたがってプリムと名づけた。そしてこの書のすべての言葉により、またこの事について見たところ、自分たちの会ったところによって、

エステ9:27 ユダヤ人は相定め、年々その書かれているところにしたが、その定められた時にしたがって、この両日を守り、自分たちと、その子孫およびすべて自分たちにつらなる者はこれを行いつづけて廃することなく、

エステ9:28 この両日を、代々、家々、州々、町々において必ず覚えて守るべきものとし、これらのプリムの日がユダヤ人のうちに廃せられることのないようにし、またこの記念がその子孫の中に絶えることのないようにした。

エステ9:29 さらにアビハイルの娘である王妃エステルとユダヤ人モルデカイは、権威をもってこのプリムの第2の書を書き、それを確かめた。

エステ9:30 そしてアハシュエロスの国の127州にいるすべてのユダヤ人に、平和と真実の言葉をもって書を送り、

エステ9:31 断食と悲しみのことについて、ユダヤ人モルデカイと王妃エステルが、かつてユダヤ人に命じたように、またユダヤ人たちが、かつて自分たちとその子孫のために定めたように、プリムのこれらの日をその定めた時に守らせた。

エステ9:32 エステルの参れいはプリムに関するこれらの事を確定した。またこれは書にしるされた。

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ\*\*\*:

エステ10: エステル記 第10章

エステ10:1 アハシュエロス王はその国および海に沿った国々にみつぎを課した。

エステ10:2 彼の権力と勢力によるすべての事業、および王がモルデカイを高い地位にのぼらせた事の詳しい話はメデアとペルシャの王たちの日誌の書にしるされているではないか。

エステ10:3 ユダヤ人モルデカイはアハシュエロス王に次ぐ者となり、ユダヤ人の中にあつて大いなる者となり、その多くの兄弟に喜ばれた。彼はその民の幸福を求め、すべての国民に平和を述べたからである。